

令和二年 秋の課題作文・読書感想文

〈塾長講評〉

今回も小学生は読書感想文、中学生は課題作文に取り組んでもらいました。中学生の課題文では熊本県人吉市周辺に甚大な被害をもたらした令和二年七月豪雨を題材にし、浸水推定図や降水量の表を読み取って書いた上で、想定外を想定内にしていくためにというテーマで自己の体験と対策を述べるという形式でした。

今回のコンテストでは私たち講師にとっても想定外のできごとがありました。それは、中学生の課題作文において資料の読み取りを誤ったり、作文条件を守っていないあたりした作品がとても多かったです。資料の読み取りは、入試はもとより中学校の定期テストでも頻繁に出題されています。塾としても訓練の必要性を強く感じましたので、今後は塾で使用するプリント類にこの手の問題を増やしていく、対策を一層強化して参ります。

さて、ここからは主な受賞作品の選出理由となります。まずは小学生の金賞受賞作品についてです。「ぼくらの七日間戦争の読書感想文」でしたが、物語を通じて読者に訴えたいと作者の思っていることが本人の心にしっかりと届いているように感じました。また、最初から最後まで論理が一貫している点も評価されて選出に至りました。次に中学生の作品についてです。金賞受賞作品は、資料を正しく読み取れてい

たこと、作文条件を守っていたことに加えて、その後半部で自分自身の過去の体験をとてども丁寧に描写していました。字数制限の関係なのか結論は若干薄い印象がありました。全体的によくまとまっていると評価されました。続けて特別賞受賞作品については、文全体の構成がオリジナリティに富んでいて、身近な話題で、抜き打ちテストに対する考察を示していたり、社会的な話題で南海トラフ大地震に対する備えの大切さを説いたりしている点が際立っていました。ただ、作文条件である資料読み取りが充分に行われていませんでした。今後は作文条件を絶対に守るよう気を付けて欲しいと思います。

最後になりますが、受賞に至らなかった作品も多く、相変わらず話し言葉の多用や主語と述語の不整合が見受けられました。作文では原則として書き言葉を用いること、主語と述語のねじれを発生させないようにすることを意識しましょう。また、小学生の読書感想文であらすじを長々と書いてある作品も目立ちました。物語全体から感想を書かなければならないと決めつける必要はありません。物語の一場面の一つのセリフを切り取る形で自分自身の感じたことや考えたことを書いてもいいのです。次回のチャレンジの際にはこういった点を参考に、取り組んでみてください。